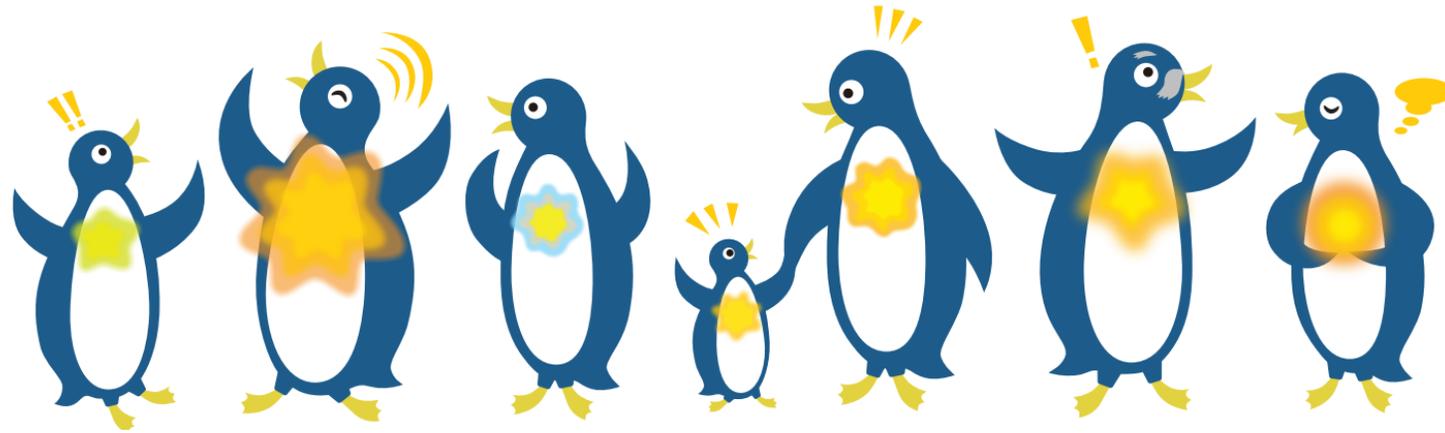


教育大綱

～ 炭火のごとく、学びの火を生涯灯し続けられるまちへ～



令和7年4月



鎌倉市

目次

1. 目指す姿<ビジョン> P.3
2. 行動指針<コンセプト> P.6
3. 附則 P.14



1. 目指す姿<ビジョン>

2. 行動指針<コンセプト>

3. 附則

鎌倉市を取り巻く地域・学校の教育環境を踏まえた対話を通じて、“炭火”をキーワードとした目指す姿（ビジョン）を策定しました。

地域

- 自然・文化・伝統などの地域資本に恵まれ、生涯にわたって学び続けられる機会に溢れている
- “共生社会”を標榜し、一人ひとりの多様性を重んじるとともに、市民のWell-beingの実現を目指して

学校

- 全国に比して「学力」や「自己肯定感」が高い子どもたちが多く、表現することが好きな子どもも多い
- 一方で、不登校児童生徒が増加傾向であるなど、子どもたちが安心して学べる環境が求められている

鎌倉市の教育を
取り巻く背景

目指す姿（ビジョン）

“炭火”のごとく誰もが学びの火を灯し続け、
生涯にわたり心豊かに生きられるまち鎌倉

“目指す姿”に込めた思い

各々の燃え方で火を灯し続け、その火をどんどん伝播させていくという性質から、“炭火”を教育大綱のキーワードとしました。



“炭”はなかなか
火がつかない……

火をつけるには
巧妙な環境設計が必要



しかし、ひとたび
火が灯ると……



持続性

炭火は、じわじわと長く燃え続ける。
消えたように見えても、ふっと息を吹きかければ、
瞬く間に赤く燃え上がる。

多様性

炭は多様だ。色も、形も、材質もバラバラ。それでも炭火は燃える。それぞれの燃え方で。

伝播性

炭火は、周囲の炭へじわじわ熱を広げていく。

やがて火は大きくなり、火鉢全体が赤く包まれる。

1. 目指す姿<ビジョン>

2. 行動指針<コンセプト>



— 全体像 / 学習者中心の学び

— 各政策の柱

3. 附則

鎌倉市は、①“個の多様性”を前提としながら、②自ら学びを“自己決定”するとともに、③学びに向かうための“巧妙な環境設計”の視点を持って教育政策を推進します。

“炭火”のような学習者へ…

Ⅰ “個の多様性”の視点

学習者は多様であることを前提とした学びとなっているか？



Ⅱ “自己決定”の視点

学習者が主体的に自らの学びをデザインできているか？

“学習者中心の学び”

Ⅲ “巧妙な環境設計”の視点

安心してワクワクする学びに向かえる環境設計ができているか？

“学習者”を中心に据えながら、①ワクワク②地域の宝物③共生社会④環境整備の4つを政策の柱として位置付け、“炭火”というビジョン実現に取り組んでまいります



1. 目指す姿<ビジョン>

2. 行動指針<コンセプト>

— 全体像 / 学習者中心の学び



— **各政策の柱**

3. 附則

“ワクワクして未来を創る学びを生み出す”ため、我々は学びの在り方の変容や教育DX等に重点的に取り組みます。

① ワクワクして未来を創る学びを生み出す

取組の方向性

“テストの点数”のみを追い求める学びに、持続可能性はない。まるで“探検”するかのような、学習者がワクワクする主体的な学びをつくる。

実現したい“学び”のシーン（例）

- 大好きな“海”を探究。深海生物はふしぎがいっぱいでとても面白い！
- でも、地元の漁港や研究者にインタビューすると、海はたくさんの社会課題とつながりが…？



- タブレットを使った授業は、いつでも調べられるしすぐに友達と資料を共有できるから便利！
- 宿題もアプリで。間違えた問題や間違え方によって解説を変えてくれるから分かりやすい！



重点的に取り組むプロジェクト

A 新たな時代に対応した学びの実現

- スクールコラボファンドの活用も含めた、体験的・探究的な学びの推進など、時代の変化に応じた学びの在り方の変容に取り組む

B デジタル技術による学びの転換

- Cellularモデルの1人1台端末整備や、クラウド・AI活用等を通じた教育DXにより、誰もが自分らしく主体的に学べる環境の整備を進める

C “学習者中心の学び”への挑戦支援

- 各学校・教職員が“学習者中心の学び”を前提として学校経営・授業等に取り組めるよう、各学校への伴走支援や教職員研修の充実に取り組む

“地域の宝物を活かし、生涯をかけて学ぶ機会をつくる”ため、我々は学校と地域の連携や学習機会の充実、歴史・文化の活用等に重点的に取り組みます。

② 地域の宝物を活かし、生涯かけて学ぶ機会をつくる

取組の方向性

海や山、文化財、多様な市民…。鎌倉には豊富な自然・文化・社会資本がある。こうした“地域の宝物”を存分に生かし、生涯にわたって自らに“学びの火を灯せる機会”をつくる。

実現したい“学び”のシーン（例）

- こどもは卒業したけど、**運動会などのイベント**をお手伝い。
- 手伝いだけでなく、学校のグランドデザイン策定に関わるなど、**対等な関係で協働**していると感じます！



- 仕事を定年して初めて、**生涯学習センターで水彩画に挑戦**。
- 仕事以外で新しい友人もでき、別の講座へのお誘いも…。久しぶりに**学びに溢れた日々**を過ごしています！



重点的に取り組むプロジェクト

A 地域と学校の連携推進

- コミュニティスクールをはじめ、地域と学校の連携・協働を推進し、地域とともにある学校を実現する

B 生涯学習・体験学習の機会充実

- 幅広い世代が生涯学び続けるためのプログラム開発や、こどもたちの部活動や学外での体験活動など、多様な学びの機会を創出する

C 歴史・文化の保存・継承・活用

- 博物館等も活かしながら、鎌倉市にある文化財を適切に保存・継承するとともに、その活用を通じて文化の発展・市民の教育に寄与していく

“多様性を尊重した学びで共生社会を共創する”ため、我々は学びの多様化やインクルーシブ教育、子育て・子育ての環境整備等に重点的に取り組めます。

③ 多様性を尊重した学びで共生社会を共創する

取組の方向性

それぞれが自分との“違い”を多様性として認め合うことで、鎌倉に関わる多様な大人・こどもが人権を尊重されながら平和に生きることが出来る“共生社会”を共創する。

実現したい“学び”のシーン（例）

- 教室には行けないけど、フリースペースは**マイペースに学べる**から楽しい！
- できることが増えてきて**少しずつ自信も**…。友達の誘いで、たまになら教室へ行けるようになった！



- 算数がとても苦手で、授業もみんなのペースに中々ついていけない。
- けれど最近は、**授業中に別の先生**が来てくれたり、**難しい範囲は個別で**教えてくれたりするので少し安心！



重点的に取り組むプロジェクト

A こどもたちの学びの多様化推進

- 校内フリースペースや、学びの多様化学校の整備を通じて、こどもたちが個性を輝かせて自分らしい学びを選択できる環境を実現する

B インクルーシブ教育の実現

- 学級介助員・医療的ケアに対応する看護師配置や、特別支援学校との連携推進など、誰もが包摂される教育の実現に向けて取り組む

C 子育て・子育ての環境整備

- 保護者が安心して子育てに取り組めるよう相談体制を充実し、就学援助等により経済的な教育格差を是正するなど、子育て・子育ての環境整備に取り組む

“学習者中心の学びを支える環境を整備する”ため、我々は学校の指導体制充実や、教育環境の整備、生涯学習基盤の整備等に重点的に取り組みます。

④ 学習者中心の学びを支える環境を整備する

取組の方向性

炭に火を灯すにも“一工夫”が求められるのと同様、学びの火を灯すには“学習者”への理解や専門性に基づく巧みな環境設計が肝要。安全で豊かな学習環境整備を通じて“学習者中心の学び”を実現する。

実現したい“学び”のシーン（例）

- 学校のトイレが新しくなり、体育館に空調がついてとても安心。
- 教室も、椅子や机が新しくなり、スクリーンも設置されて、これまでに以上に探究的な学びに挑戦しやすい！



- 図書館や生涯学習センターのデジタル化が進み、利用がとても便利に。
- 十分に学べる環境があるからこそ、何歳になっても新しいことを“学びたい”と思えていると感じます！



重点的に取り組むプロジェクト

A 学校の指導・運営体制の充実

- 質・量ともに十分な指導体制を構築し、学習者中心の学びに取り組めるよう、必要な教職員の確保に努める

B 安心安全で豊かな学校教育環境の整備

- 学校整備計画に基づく大規模改修やトイレ等の老朽化対策、体育館冷房整備を進めるとともに、学習者中心の学びに対応した新たな学習空間の整備等に取り組む

C 地域における生涯学習基盤の整備

- 生涯学習センターや図書館など、こどもから大人まで生涯にわたって豊かな学びが得られる環境整備を着実に進める

1. 目指す姿<ビジョン>

2. 行動指針<コンセプト>



3. 附則

附則

1. 教育大綱は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和三十一年法律第百六十二号)」第一条の三に定める「総合的な施策の大綱」を指すものとする。
2. 教育大綱については、2025年(令和7年)4月から2030年(令和12年)3月までの5年間効力を有するものとする。ただし、総合計画のスケジュール等その他の事情を踏まえて期間を変更する場合には、総合教育会議の承認を経るものとする。
3. 教育大綱の内容に修正が必要となった場合は、その修正内容について総合教育会議の承認を経るものとする。
4. 教育委員会においては今後速やかに、教育大綱の内容を踏まえて、その趣旨を実現するための具体的な施策等を整理した教育振興基本計画を策定することとする。

參考資料

市として掲げる“教育政策の中長期ビジョン”であり、政策検討の際には常にこの教育大綱に立ち返って検討されることとなります。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和三十一年第百六十二号)

(大綱の策定等)

第一条の三 地方公共団体の長は、教育基本法第十七条第一項に規定する基本的な方針を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱（以下単に「大綱」という。）を定めるものとする。

2 地方公共団体の長は、大綱を定め、又はこれを変更しようとするときは、あらかじめ、次条第一項の総合教育会議において協議するものとする。

3～4 (略)

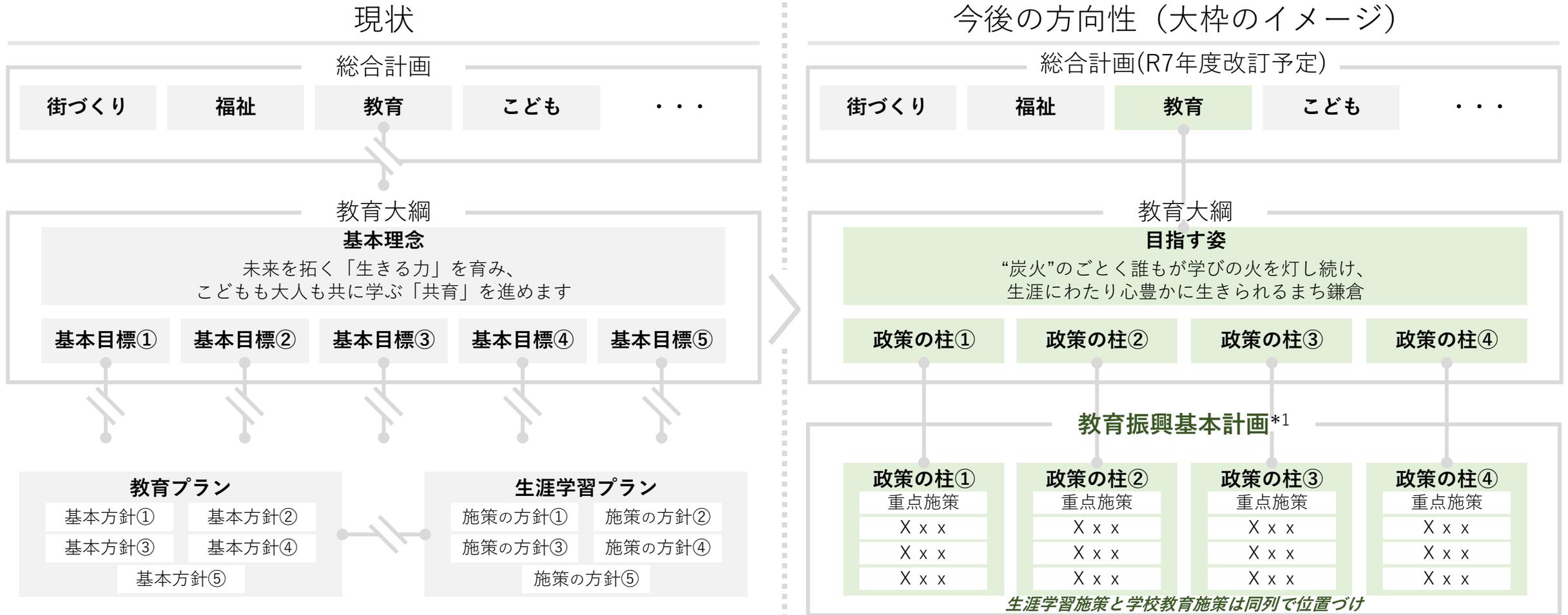
(総合教育会議)

第一条の四 地方公共団体の長は、大綱の策定に関する協議及び次に掲げる事項についての協議並びにこれらに関する次項各号に掲げる構成員の事務の調整を行うため、総合教育会議を設けるものとする。

一～二 (略)

2～9 (略)

総合計画－教育大綱－基本計画を通じて整理することで、市民からも分かりやすい教育政策体系としていきたいと考えています。

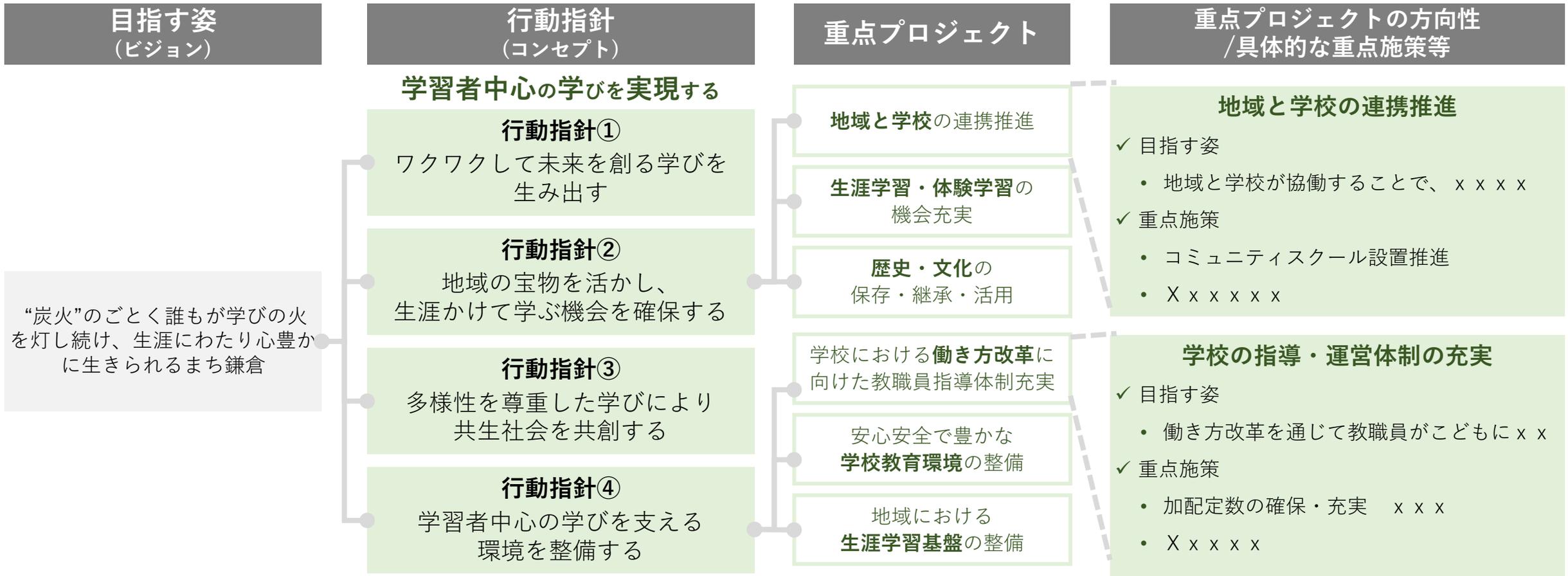


*1: 教育基本法では、各自治体において教育振興基本計画策定は努力義務と規定。現状鎌倉市では教育プラン/生涯学習プランを併せて基本計画と位置付けている

**教育大綱では目指す姿に基づき行動指針・重点プロジェクトを位置づけ。
教育振興基本計画では、行動指針と重点プロジェクトを具体化していく想定です。**

教育大綱

教育振興基本計画



鎌倉市の現状を捉える中で、“学習者中心”や“ワクワク”、“地域の宝物”、“共生社会”などのキーワードを導出しました。

- ✓ 学力が高い（特に中学生）
- ✓ 基本的な生活習慣や学習習慣が定着している
- ✓ 自己肯定感が高く、表現するのが好きで得意
- ✓ 運動への意欲・能力が高い

- ✓ 不登校児童生徒や、児童生徒指導上の課題
- ✓ 教職員の働きがいの向上、教員のなり手確保、
- ✓ 校務デジタル化
- ✓ 学校と社会の連携、教育観/授業のアップデート

“学習者中心の学び”との
親和性が高い

- ✓ 自然・文化・伝統などの地域資本
- ✓ 多様で元気で個性的な大人たち
- ✓ 家庭の社会関係資本、文化関係資本が高い
- ✓ 共生社会、スマートシティ、Fab City

“地域の宝物を活かした豊かな学び”が
できる環境にある



“ワクワクしながら未来を創る学び”が
求められている

- ✓ 家庭や地域が抱える問題の複雑化
- ✓ こどもを取り巻く状況の深刻化（ヤングケアラー、経済格差など）

“共生社会における自分らしい学び”を
生み出していく必要がある

これまで、総合教育会議の議論に限らず、多様な場面で教育大綱に関する議論や説明などの取組を進めてまいりました。

※記載は代表的なものに限る



2023/7 総合教育会議



2023/11 教育委員会事務局管理職による対話 事務局



2023/12 教育委員会定例会 教委



2023/12 小・中学校長会 学校



2023/12 教育委員会事務局スタッフによる対話 事務局



2024/1 社会教育委員会議 地域



2024/1 総合教育会議



2024/4 鎌倉市学校教育研究会総会 学校



2024/5 鎌倉こどもミライミーティング こども



2024/6 総合教育会議



2024/7 鎌倉市PTA連絡協議会 保護者



2024/7 小・中学校管理職研修における対話 学校



2024/11 中学生作文コンクール(“未来の学校”) こども



2024/11 小・中学校長会 学校



2024/11 社会教育委員会議 地域



2024/12 鎌倉市PTA連絡協議会 保護者



2024/12 総合教育会議



2024/12 小・中学校長会 学校



2025/1 社会教育委員会議 地域



2025/1 総合教育会議



一人ひとりが教育大綱に思いを込めるワークショップを行いました



現場をリードする学校管理職とも教育大綱に向けた対話を重ねてまいりました



こどもたちから直接、未来の教育への期待についてお話をお伺いしました



GIGA端末の着実な更新やクラウド・AI技術の活用を通じた教育DXとともに、 スクールラボファンド活用基金の充実を通じて探究的な学びを推進します。

政策の柱

ワクワクして未来を創る
学びを生み出す



地域の宝物を活かし、
生涯かけて学ぶ機会をつくる



多様性を尊重した学びで、
共生社会を共創する



学習者中心の学びを支える
環境を整備する



教育大綱の趣旨を実現するための施策（例）

教育DXの実現



- 耐用年数を経たGIGA端末を更新。引き続きCellularモデルを導入し、“いつでも/どこでも”学べる環境を整備
- 学びだけでなく、教職員の校務DXも推進。クラウドやAIを活用した校務環境を整備し、子供も教職員もワクワクできる学校教育環境を実現

新たな時代に対応した学びの実現

- 変化の激しい時代を切り拓く力を身に着けるため、学校における“探究的な学び”を充実
- より社会のリアルな課題に取り組めるよう、多様な企業・団体等と連携するための“スクールラボファンド活用基金”を一層推進

中学生の放課後の学びの充実を図るとともに、多様な学びの場やインクルーシブ教育の充実を進める

政策の柱

ワクワクして未来を創る
学びを生み出す



地域の宝物を活かし、
生涯かけて学ぶ機会をつくる



多様性を尊重した学びで、
共生社会を共創する



学習者中心の学びを支える
環境を整備する



教育大綱の趣旨を実現するための施策（例）

部活動×地域体験



- 学校部活動を持続可能なものとするよう、地域の力を活用した“**部活動サポーター**”制度を創設
- 更に、部活動以外にも**放課後の学び・体験機会を生み出すため、地域における取組を“カマクラブカツ(仮称)”として認定する仕組みを創設**

多様な学びの場の充実



- 多様な学びを推進するため、ULTLAプログラムや校内フリースペースの整備を引き続き実施
- **学びの多様化学校“由比ガ浜中学校（仮称）”をR7.4から着実に開校するとともに、本校での取組を鎌倉市全体へ波及することで、市としての学びの多様化を目指す**

インクルーシブ教育の充実



- **医療的ケアや手話通訳等の対応が求められる児童生徒への支援や、先進的な取組を進める学校のインクルーシブモデル校指定による事例創出を通じて、インクルーシブ教育の実践を推進**

学校の運営体制を強化を図るとともに、学校施設の整備や、生涯学習基盤としてのセンターや博物館、図書館などの整備を進める

政策の柱

ワクワクして未来を創る
学びを生み出す



地域の宝物を活かし、
生涯かけて学ぶ機会をつくる



多様性を尊重した学びで、
共生社会を共創する



学習者中心の学びを支える
環境を整備する



教育大綱の趣旨を実現するための施策（例）

学校運営体制の 強化



- 市独自で教職員を正規並みの処遇で採用(任期付)し、各学校における学習者中心の学びへの対応を後押し
小学校における**児童支援専任**や**専科指導**等を更に推進

学校施設環境の 整備・充実



- 学校整備計画に基づき**施設の大規模改修**に着手するとともに、**トイレや体育館冷房等の整備**を通じて学校生活環境を改善
- 各学校に、協働的な学びや発表活動など、**探究学習に挑戦しやすい学習空間を整備**（可動式の椅子・机やホワイトボード、スクリーンなど）

生涯学習基盤の 整備・充実



- 生涯学習センターや博物館、図書館**などについて、施設・設備の改修やデジタル化を図るなど、鎌倉市内における**生涯学習の基盤となる機能を充実**